

序

この本を手に取られた皆さんは少なからず集中治療に興味があるのではないかと思います。ICUというと患者さんが複数のチューブ類やモニター、医療機器に囲まれているので身構えてしまうかと思いますが、一つひとつのモニターやデバイスには意味があり、それらを理解することで患者さんがどのような状態にあるか、どの方向に治療を行っていけばよいかを教えてくれます。

集中治療領域は日進月歩でどんどん情報がアップデートされていきます。第1章を読んでいただけするとわかりますが、集中治療では心臓や肺にとどまらず、全身すべての臓器が対象となります。われわれ医療スタッフの願いはICUで治療を受けたすべての患者さんが退院して元通りの生活を送れるようになることですが、ICUは出られたものの、体力が戻らず元の生活が送れないこともあります。また、場合によっては全力で治療を行ったものの治療をあきらめなければならないときもあります。そのようなときにどうすればよいかもこの本は教えてくれます。

今回はICUの各領域のスペシャリストの先生方、第一線で活躍されている先生方に執筆をお願いさせていただきました。ぜひこの本を読んでICU研修に臨んでください。これまでとは違った目線でICU研修が行えるようになると思います。

ICU研修を通して集中治療に興味をもっていただき、専門研修に集中治療を選択して、一人でも集中治療医を志す仲間が増えることを楽しみにしております。

2023年8月

聖マリアンナ医科大学病院 麻酔科・集中治療センター
佐藤暢夫

集中治療という診療部門、学問の存在意義が、多方面において高まってきています。その証の1つが、集中治療科専門医の専門医機構によるサブスペシャルティ認定です。救急・麻酔・小児科・内科の専門医の先生が次のステップとして集中治療科専門医をめざしています。しかし研修医の皆さんは、集中治療部（ICU）という医療環境をどのように理解されていますか？重症患者を治療する医療現場である、医療機器が多い、モニターが多い、モニター音がうるさい、医師個人への知識的・技術的負荷が大きい、などと漠然と思っている人もおられるのではないか？そしてICUへの道から遠のいていく先生もいると思います。

今回の増刊号は、研修医の皆さんがICUの扉をひらき、最初の一歩を踏み出す手助けとなるよう、基本的な内容を中心に企画しています。ICUでの病態・治療の考え方など、まずここは理解してからはじめましょう、という内容です。

ICUでの患者管理は医師だけでなく、全スタッフと連携して行うものです。患者サイドで最も長時間勤務している看護師の患者状態変化の気づきの報告から連携して患者状態の悪化を防ぐことが治療の1つになります。そのため、医師側の心構えとして、つねに看護師や他職種の医療スタッフからの声を聴ける環境で治療を行ってください。

また、医療機器を使用するときには、その使用により患者さんへの負荷が減じていることを確認してください。人工呼吸管理を開始する場合、人工呼吸器を装着するだけで患者さんの状態がよくなるのではなく、人工呼吸器が患者さんの呼吸状態を適切にサポートするための設定が必要です。多くのモニターが装着された患者さんでは、そのモニターの声を患者さんの声の代わりに聞いてください。

医療スタッフの声、モニターの声を聞き、患者さんを診て集中治療にあたるその一歩にこの本が役立つことを期待します。ぜひ、集中治療科医をめざしてください。

2023年8月

医療法人徳洲会東京本部 周術期医療地域支援室

野村岳志